

先週の回答



あの頃は港区の白金に住んでおりましたの、あたくし。
 くる日もくる日もあたくしを欲しいというお見合いの申し込みに忙殺されて、窓口になっていた叔母が音を上げて、「美智子さん、言い加減にどなたかにお決めになったら」ってあたくしを責めるの。あたくし自分で言うのも何ですけど、白金ネーゼ小町っていわゆる美貌でしたから。

叔母はあたくしに会うたびに「どうして美智子さんでそんなに美しいのかした、顔もただどスタイルも抜群で」とあきれてましたの。
 そんなこと言われてもそうなんだから仕方ないじゃないのって、あたくしは

言い返してましたの。

自分で言うのも何ですけど、あたくし、瞳がつぶらで鼻筋が通っていて、唇が花の蕾のように小さくてかわいいの。肌は真っ白で透き通るようなの。

自分で言うのも何ですけど、神様がよくこんなに繊細な美しさをお造りになったわって感謝しましたの。

それがどう、気がついたら、変化してきましたの。「どうしてなの」って思ったけど叔母は去年九十八歳でなくなりましたの。

あんなに美しいあたしが変わったのに気がついたのは、去年の暮れ頃からなの。あたくしのすべすべの白い肌にシワが寄ったのに気づいたの。シワは寄り出すと際限なしに短時間で寄るのにも気

づきましたの。
 年を取ると老(ふ)けるって聞いてはいましたけど、そんなの迷信と思ってましたの。美人は例外だと信じてましたのだから、夕暮れは毎日くるけれども、あたくしにはこないと。
 それなのにあたくしがこんなになつたのは、あたくしを造った神様の責任だと思いません？
 責任者出てこい！って言いたいので、あたくし。



今週の問題



□の中に漢字を埋めて
四字熟語を完成させてください。